

## 新入生のみなさんへ

京都府立大学

学長 築山 崇

### 知の冒険物語を紡ぐ日々をともに

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんを迎えることは、大学にとっても大きな喜びであり、教職員一同心から歓迎します。

### 大学、それは成長物語の舞台

みなさんは、今日こうして、新しい出発の時を迎えています。みなさんが過ごしてきたこれまでの生活を振り返ると、その時々々の音や匂い、熱など、記憶をかたちどる感覚が甦ってくる、あるいはからだに刻み込まれているように感じる、そんな経験はないでしょうか。

「**記憶に残る瞬間**」というのは、誰にとっても重要な、普遍的な出来事であるとは限りません。何気ない日常の一コマが、切り取られていることが多いものです。しかし、その一コマ一コマを、もう少し注意深く読み解いていくと、気づかずにいたストーリーが浮かんでくることがあります。表層の記憶の一段深いところに流れていた心の物語と言ってもいいでしょう。そこには、容易に叶うことのない願いや遠い存在への憧れなど、人生という大きな物語が背景として息づいているように思えます。これは、今ではずいぶん昔のこととなってしまった、私の学生時代を振り返っての感慨でもあります。

いま、あらためて振り返ってみますと、高等学校までは、教科書に代表されるような、学習のために特別に編集された内容が用意されていましたが、大学では、専門諸分野の学問体系に依拠した内容を学んでいくことになりました。文字通り学生の自主的活動として展開される課外活動や、郷里を離れての一人暮らしといった、高校までとは大きく異なる生活世界にあって、新鮮さと自由と、そして少々の不安を感じつつ過ごした時間のなかで、人やモノに対する感じ方、考え方が時に一気に、そして徐々にその形を変え、恋愛や結婚といったプライベートも含め、自分なりの生き方のイメージを心に描きつつ、職業の選択にもつながっていった濃厚な四年間でした。

このように、学部・学士課程での学生生活は、今までとは違った**特別な質をもった時空間**と言えます。大学院博士前期課程は、この「特別な四年間」を経た、研究という新しい**知的探求の世界**であり、博士後期課程は、学位の取得に向けて、新たな決意のもと**研究に打ち込む特別な日々**となると思います。

このようなお話をしていると、幼いころに読んだ物語を思い出します。ジュール・ベルヌの『二年間の休暇』という本です。お読みになったことがある方も多いと思いますが、『一五少年漂流記』といった方が、わかりやすいかもしれません。無人島に漂着した 15 人の 14 歳をかしらとする子ども達が、様々な困難にぶつかりながらも、集団の智恵と力で乗り切り、二年後に心身ともたくましく成長した姿で無事故郷に戻ることができるという物語です。食糧の調達、住む場所の確保、自分たちで作ったルールによる集団生活、学習やより幼い仲間のケア、外敵から身を守る術など、実に生き生きと描かれていました。「二年間の休暇」という原題に込められた、ベルヌの思いも、「人間の成長にとっての特別な時空間」というところにあったのかもしれない。

学部に入學されるみなさんにとって、大学生活が「四年間の休暇」ならぬ、「**四年間の成長物語**」となるよう心から願うものです。また、大学院に入學される皆さんは、専門分野それぞれの方法論を踏まえて、自らのテーマに果敢に挑み、**発見の感動**をくぐることによって、**現代社会が直面している諸問題に挑戦**する確かな力を培ってほしいと思います。

加えてみなさんにぜひ心掛けてほしいことがあります。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、昨年末本学で急性アルコール中毒による死亡事故が発生しました。あつてはならない悲しい出来事で、本学構成員一同、安全・安心な学生生活を守るという思いを一層強くし、様々な取組を進めているところです。みなさんも生活の中に潜む様々な危険性について認識を深めてほしいと思います。

## 京都府立大学の使命

次に、京都府立大学の社会的使命について、お話したいと思います。

本学では、大学の目的・あり方の基本を成文化した「理念」とそれに基づく「行動憲章」を 2008 年(平成 20 年)に定めています。これらは、ガイダンスで配布される「学生便覧」、あるいは大学ホームページなどに掲載されていますので、詳細はそちらを是非一読いただきたいと思います。 「理念」では、「京都府立大学は、京都府における知の拠点として、広く人文・社会・自然の諸分野にわたる真理を探究し、教育するとともに、その成果を健康と福祉の向上、産業の振興、文化の継承発展、国際社会の調和ある発展に活かすことを目的とする」と定めています。また、「行動憲章」の前文では、「長い文化的伝統を持つ京都の地において、本学が百十余年にわたって府民に支えられつつ学問の府として活動してきた歴史」に触れ、「地域社会の発展と府民生活の向上、さらには人類の幸福に貢献します」と謳っています。みなさんの学びは、みなさん一人だけのものではなく、多くの府民に支えられた、地域社会にとっての宝でもある、ということこそ是非心に留めておいていただきたいと思います。

## 地域に学び、地域とともに成長する

本学では、地域の課題をとらえた研究活動が活発に行われていると同時に、学生のみなさんが府内の様々な地域に出かけて、海や森といった自然、地域の特色ある産業などに触れて、体験的に学ぶ機会が京都府や府内市町村、企業や地域団体などの支援・協力によって、豊富に設けられています。

みなさんには、このような公立大学ならではの恵まれた条件を活かして、地域に学び、地域とともに成長していく、アクティブな大学生活を送ってほしいと思います。

## 北山文化環境ゾーンから、次代を拓く学びを

本日の入学式の会場であるこのコンサートホールの南には、みなさんが教養教育の授業を受けられる施設「稲盛記念会館」がありますが、その隣では、本学の文学部研究室、図書館、そして府立総合資料館、京都に関する国際的な研究機関としての国際京都学センターからなる、複合施設も完成を間近に控えた斬新なデザインによる姿を見せています。加えて、植物園、コンサートホールなど魅力的な施設を擁する、北山文化環境ゾーンという恵まれた環境に本学はあります。幸い、本学は、規模も小さく、お互いの顔が見える学びのコミュニティーをかたちづくっており、身近な触れ合いのなかで、お互いの人間性を培っていくことができます。これからの時代を拓く学びに最適の場と言っていいでしょう。

なかでも教養教育は、府立医科大学、京都工芸繊維大学、本学の三大学の学生が一同に会して学ぶ体制が整えられています。全国でも他に例を見ない新しい教養教育のかたちです。京都の歴史・文化・自然について学ぶ京都学科目、ユネスコの無形文化遺産にも登録された、和食文化について学ぶ、「和食の文化と科学プログラム」など、京都ならではの、魅力ある科目群も用意されています。これからの時代そして世界が求める、知性や感性を大いに磨いていただけることと思います。

Think globally, Act locally という標語はすでにみなさんの耳にもなじんでいると思いますが、今日 global ~local 双方向で、この言葉のリアリティーが一層増していると言っていいでしょう。

学びと研究・創造、交流のコミュニティー、京都府立大学・同大学院（KPU）の仲間として、日本と世界の未来への歩みをともに進めていきましょう。